平成27年度　清瀬市立清瀬第二中学校　学校関係者評価表

学校教育目標　健康（よりたくましく　心身をきたえる）
愛情（より豊かな　心をつちかう）
学力（より深く　自ら学ぶ）
勤労（よりよくはたらき　責任をはたす）

目指す学校像（ビジョン）

【目指す学校像】
1．確かな学力を身につける（指導法の工夫により基礎・基本的な知識や技術を確実に身に付けさせる）
2．自己実現に向けて努力する（キャリア教育を通して将来について考え、社会に出て通用する生徒を育てる）
3．豊かな心や健やかな体を育成する。（生命尊重の教育を実践し、全教育活動を通じて心身を鍛える）

【目指す児童・生徒像】1．豊かな情操を育む生徒　2．自ら考え判断し行動する生徒　3．社会性のある生徒　4．心身ともに健康な生徒

【目指す教師像】1．共に力を出し合う教師　2．課題を発見し、改善に繋げる教師　3．自己研鑽に励み自らを高める教師

前年度までの学校経営上の成果と課題

1．職層に応じた役割を明確にし、校内体制を整備し、組織的計画的なOJTにより教職員の資質向上に繋げる。
2．基本的な生活習慣の確立と並行し、学力向上を本校の第二ステージとする。そのために生徒が自ら考え行動できる自主自律的活動を育成する。

	具体的方策	第1回評価		課題と対策	第2回評価		課題と次年度以降の対策
		努力目標	成果目標		努力目標	成果目標	
確かな学力の向上	二中スタンダードに沿った授業研究や特別支援教育の研修を計画的に行い、授業規律の確立と授業力を高める。	4	3	小学校からの系統的な指導基準としての二中スタンダードが学力向上にどのように繋がっていくか具体的な手立てが必要である。また、特別に支援する生徒が増え、学校として一環した指導が必要。	4	4	公開授業での生徒の様子から、授業規律が遵守されていることがわかる。これは、先生方の努力の成果であると捉えるが、次に乗り越えなくてはいけない課題は、学力向上である。都の学力調査の平均値まで力を付ける授業をテーマにした授業研究が必要。
	漢字検定、数学検定、英語検定などを定期的に実施し、能力の伸長と学習意欲を向上させる。	4		各検定試験は、学習目標ともなる。毎年、実施していることで、各検定試験の実施が定着している。全生徒が検定試験に挑戦するような体制も検討が必要。	3	3	各検定試験への挑戦は、学力向上への手立ての一つにもなる。希望者だけでなく、全校体制で受験させる取組も検討すべきである。全校体制で行うことは、行事同様に生徒が互いに励まし合うきっかけにもなる。
豊かな心の育成	1年生・2年生で職場体験（3日間）の実施や各学年のねらいに応じた外部人材を活用してのキャリア教育を実施する。	4	4	1，2年生の職場体験は、生徒の望ましい職業観・勤労観以外にも、社会性や生活規律の育成に繋がっている。職場体験先も地域の連携に繋がっている。	4	4	今年度は、1年生が企業と連携し、地域活性化プロジェクトを行った。自分たちでのリサーチ、分析、発表は、職場体験の事前指導として相応しい。受動的な事前指導ではなく、このような能動的な指導を職場体験の事前・事後指導に組み入れるといい。
	あいさつプラス一言運動の徹底、アンケート・SCによる面接や定期的に相談週間を設け、実態を適切に把握し、問題の未然防止に繋げる。	4	4	学校でいじめ防止に対する取組が多々されている。各取組がどういった成果が出ているかを分析し、改善に繋げる必要がある。また、学校全体は落ち着いたが、細かい問題について見えてきていない。	4	4	いじめ問題は永遠の課題であるが、「いじめは絶対いけない」という意識を持たせることが大切である。家庭・地域が一体となって学校での取組を実施すればより効果が上がる。また、不登校の生徒が増えている。空き教室等を活用してもいい。
健やかな体の育成	部活動では、技術向上に繋がる外部指導員の活用をする。部活動、地域クラブへの参加により運動習慣と体力向上を図る。	3	4	部活動の外部指導員の活用は、専門的な指導を受けることができ、技術向上にも繋がる。しかし、予算的な面や必要な部活動の人材不足が課題と考える。	3	4	一部のスポーツで地域での活動が多くなり、学校での部活離れも見られる。技術の向上と並行して精神面の成長させる部活動が望ましい。顧問は、必ずしも専門の教員ではないが、複数顧問による指導で生徒の安全面等を考慮している。
	個に応じたTTの授業、部活動などで持久走の自主練習を取り入れ、100％のマラソン大会参加率を目指す。	4		運動会では、体育の授業におけるTTがうまく活用されていることが、生徒の動きを見て感じた。運動能力ではなく、運動に積極的に取り組む姿勢の伸長を第一に考えた指導に変えるといい。	4	4	11月に行われたマラソン大会は、二中の三大行事として定着し、目標を持って懸命に走る生徒の姿が見られた。PTAや近隣の方も協力し、他校にはない特色になりつつある。また、授業や部活動で練習前のランニングが自然とできている。
本校の特色①	学力調査の結果に基づき、指導改善に繋げる授業研究を年2回以上実施する。	4	4	授業研究の2回実施は、今後も形を変えて実施すべきである。特にアクティブラーニングを授業の中で取り入れた研究授業が必要。	4	4	年2回の研究授業は、継続すべきだが、学力調査の結果等、生徒の実態に応じてテーマを決めるといい。アクティブラーニングの導入は、授業改善への有効な手立てである。
	教科、道徳、行事のねらいに応じた外部人材を活用し、目標達成や生徒の変容に繋げる。	4	4	昨年度と同様に外部人材を活用しての出前授業や講演会が行われている。特に、心の教育では、外部人材の活用で教育的効果も出ている。	4	4	50周年記念講演会など、ねらいに応じた外部人材を活用している。教科にも外部人材が導入されれば学力向上への効果が出てくる。
本校の特色②	生徒会活動や各専門委員会の活動内容を明確にし、活性化に繋がる取組を実施する。	3	4	行事では、生徒が主体となって動き、運営している姿が見られるようになった。従来の活動をマンネリ化させることなく、新たな取組を取り入れてもよい。	4	4	生徒会が中心となって動いている場面が多々見られるようになった。今年は、50周年記念キャラクターなど、新たな動きも見られた。このようなタイムリーな活動を生徒会や専門委員会が実施するといい。
	年間2回の街頭募金活動や地域の活動に積極的に参加させることにより、多方面に目を向けさせ、ボランティア精神を高める。	4		生徒会による募金活動は定着し、二中の特色となっている。全体的に生徒が自主的に動いている。生徒会の活動を広げる機会でもある。	4	4	募金活動は、三小と合同で実施したように、生徒会が他校と連携した取組を行うことは、生徒会の活性化にも繋がる。今後もボランティア活動などを協働で行う機会があるといい。